

「第3の制服」生徒主体で制作

佐野高、同付属中生が座談会



新制服を囲んで笑顔を見せる生徒会役員たち。左から順に篠原さん、亀田さん、三田さん、丸山さん、恩田さん=3月下旬、佐野高

性別を問わず誰もが着られる「第3の制服」を生徒主体で制作した佐野高と同付属中。4月から既存の学ラン、セーラージャケットに加え、スーツタイプが選べるようになった。取り組みの中心となつた生徒会役員ら6人に、新制服への思いや舞台裏を聞いた。

（聞き手 小口華奈子）

—なぜ制服を見直そうと思ったのでしょうか。

土屋 性別で決められた制服を着るのがつらいといふ友人の話を聞いたことがきっかけでした。今ある学ランやセーラージャケットを心地よくないと感じている人がいるのではないかと考え、生徒会長選挙の公約に掲げました。

—土屋さんの公約を聞いてどう感じましたか。

篠原 性別や性自認に関して知識はありましたが、制服については思い至っていなかつたので、自分中の固定観念を壊してくれた気がしました。

三田 今の制服が当たり前だと思って過ごしてきたので、実現できるのか最初

挑戦と行動の大切さ実感

□佐野高等学校・同付属中学校では、多様性に配慮して、以下の4つのタイプの制服を用意しています。

I型	II型	III型 α	III型 β
学ラン	セーラージャケット	スーツジャケット (直線型)	スーツジャケット (曲線型)

制服のイラスト。三つの型から自由に選択できる（佐野高提供）

—制服作りの中で、気付きましたか。

土屋 初めは性的少数者

は不安もありました。

—制服作りの中で、気付きましたか。

三田 いや、中学の役職は取材時

の人のために制服を作ると

—制服作りの中で、気付きましたか。

篠原 初めは性的少数者

は不安もありました。

—制服作りの中で、気付きましたか。

三田 いや、中学の役職は取材時

の人のために制服を作ると